



〈麻スサ・角叉入りの伝統の漆喰〉

漆喰くるむ[®] **トラッド**
Traditional

施工要領書

【改定】2020 年 12 月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

1. 使用材料

※パターンや塗り厚、下地の状態によって前後します。

使用材料	荷姿	適用部位	標準塗り厚	施工面積
漆喰くるむトラッド	18kg プラ缶	内壁、天井	約 1.0 mm	約 14 m ² /缶※
		外壁 (軒の出のある雨掛かり のない部位に限る)		

使用材料	荷姿	標準塗り厚	施工面積	用途
マルチベース (内壁の湿式下地)	20kg 紙袋	約 1.5 mm	約 12 m ² /袋	せっこうボード下地の 目地処理材および下塗り 材
ボードプラスターF (内壁の湿式下地)	20kg 紙袋	約 1 mm	約 16 m ² /袋	せっこうボード下地の 目地処理材および下塗り 材

使用材料	荷姿	用途
プレスシート (内壁の乾式下地)	幅 920 mm×長さ 50m	せっこうボード・既存クロス リフォーム用の内装下地シート

使用材料	荷姿	調合比率 ※3 倍希釈の場合
NP シーラック (吸水調整材)	18 kg 金属ペール缶	原液 : 清水 1 (18 kg) : 2 (約 36 l)

2. 適用下地

(1) 内壁の場合

せっこうボード(マルチベース・ボードプラスターF または プレスシートを使用)

せっこうプラスター

(2) 外壁の場合

モルタル(弾性マルチフィラーを含む)

コンクリート

砂しっくい

※いずれも事前に吸水調整材の塗布が必要です。下地に不陸がある場合は、下地種類に適した材料により不陸調整を行って平滑な下地にしてください。

3. 内壁での施工方法

(1) せっこうボード下地のつくり方

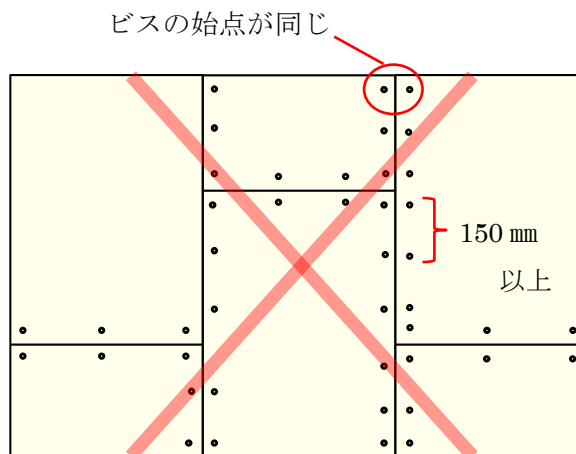
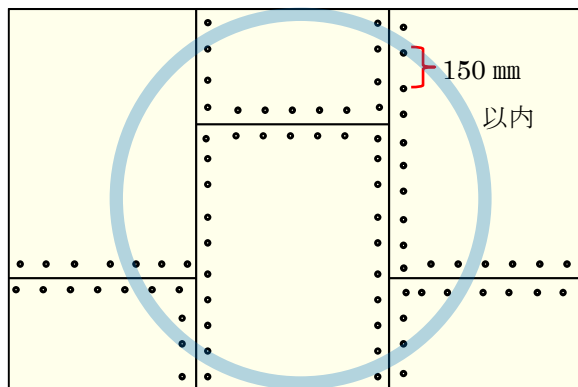
● ボードの選定

- ・ボードの厚みは 12.5 mm を推奨します。9.5 mm 厚の場合、ボードの歪みによるひび割れが発生する恐れがあります。

ボードの種類	推奨	形状	備考
テーパーエッジボード	◎		ボード同士の密着性がより強い
ベベルエッジボード	○		ボード同士の密着性が強い
スクエアエッジボード	△		ボード同士の密着性が弱い ひび割れが発生しやすい

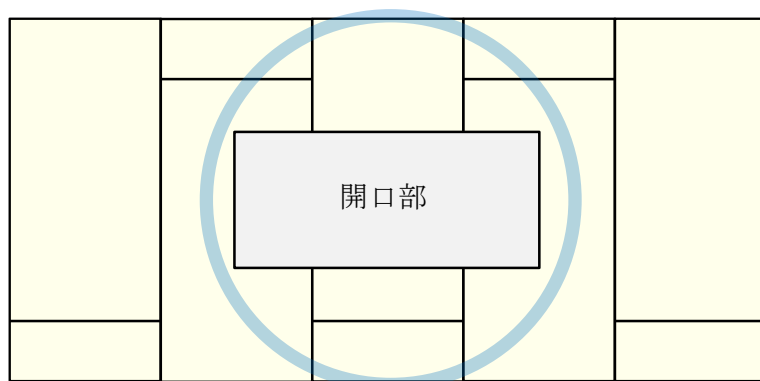
● ボードの貼り方・ビス留めの間隔

- ・より割れにくい下地にするには、二重張りを推奨します。二重張りとする場合は、必ず下張りのせっこうボードとジョイント位置をずらし、接着材を全面に塗り付け、ステープル等で固定してください。
- ・柱、間柱の間隔は 455 mm を基本としてください。
- ・ビスの間隔は 150 mm を基本としてください。
- ・ビスの長さは、ボードの厚みの 2.5～3 倍としてください。
- ・ビスの始点が同じにならないようにしてください。
- ・直張り工法(ダンゴ貼り)による、せっこうボード下地はお薦めできません。

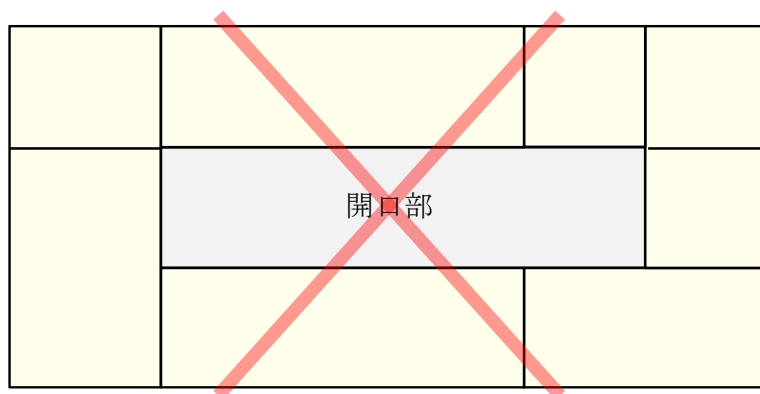


● 開口部周りの処理方法

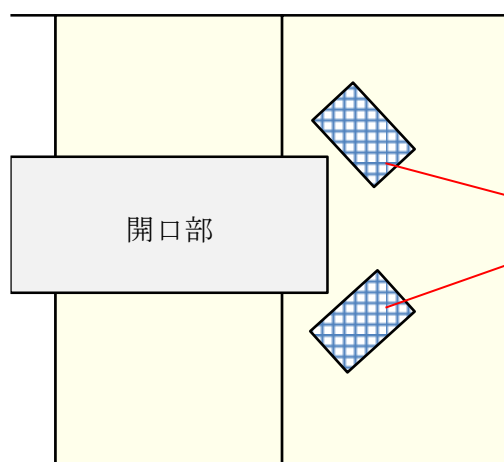
- ・ ひび割れ防止のため、開口部の角にボードのジョイント部を設けないでください。
- ・ 開口部の周りにファイバーテープを貼り補強してください。



ボードのジョイント部を窓やドアの角に設けない。

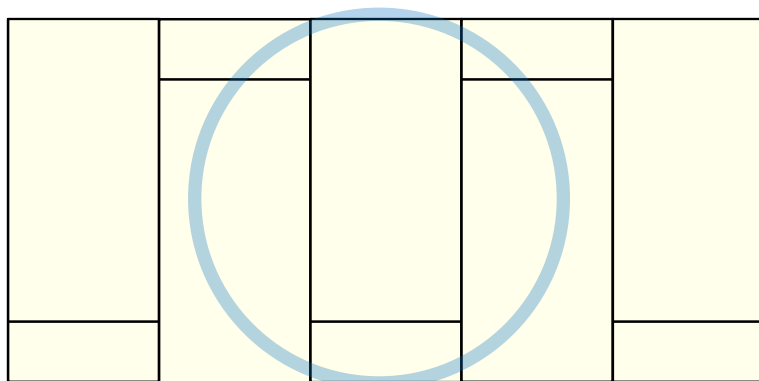


ボードのジョイント部が窓やドアの延長線にある場合、振動等でひび割れが発生しやすい。



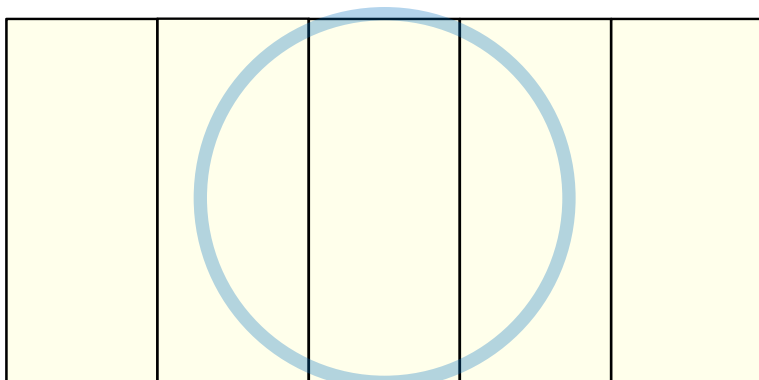
ファイバーテープを貼って
開口部周辺を補強する

● 塗り壁に適したジョイントのつくり方



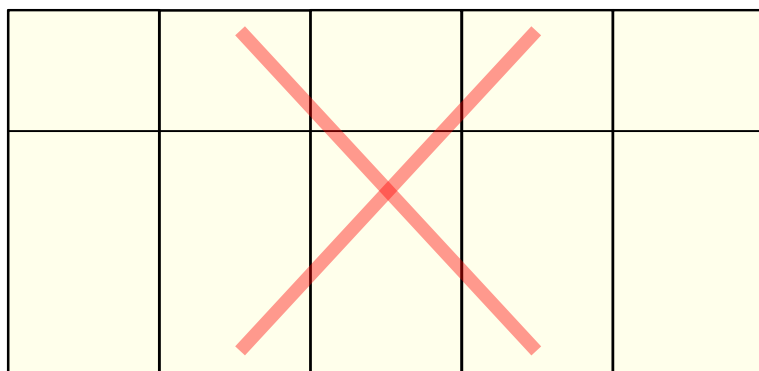
千鳥貼りすることでボードの継ぎ目に横目地が通らずひび割れしにくい。

床面



3×8 ボードを貼り、横目地をなくすことでひび割れを防ぐ。

床面

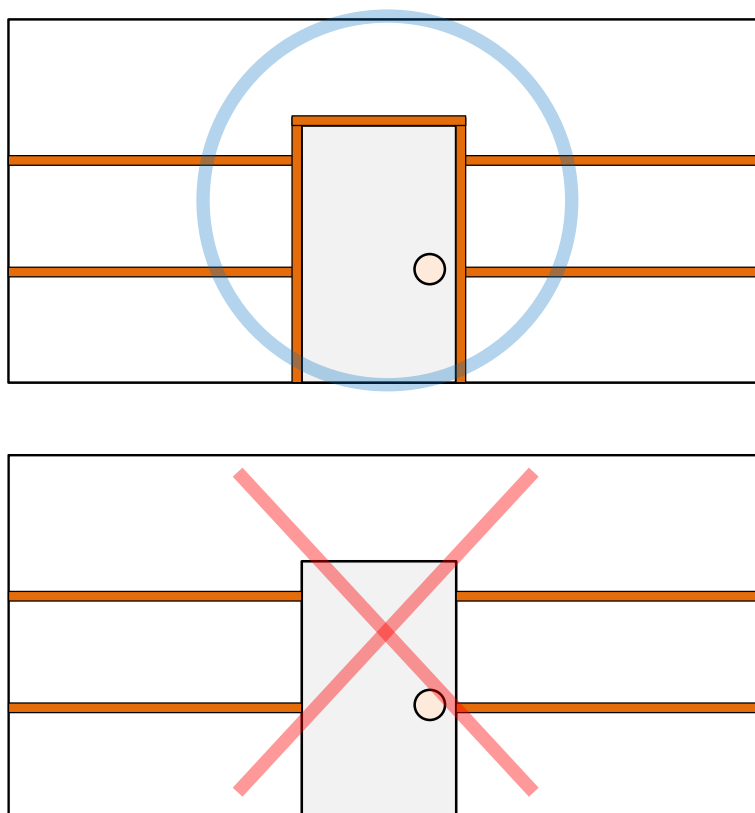


縦、横に目地が入ると動きやすく、ひび割れしやすくなる。

床面

● 受け木を設ける

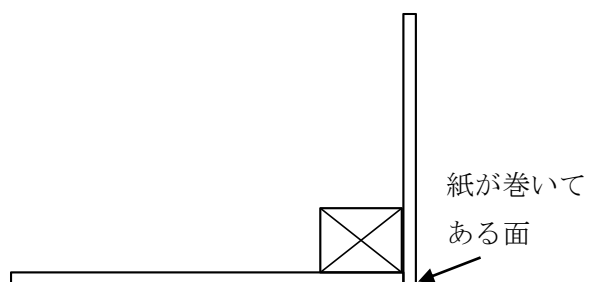
・窓やドアの周辺には受け木を設けてください。ボードが固定され、ひび割れを防ぎやすくなります。



● 出隅・入隅のつくり方

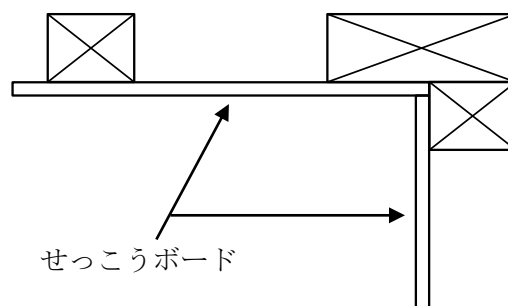
【出隅】

・出隅はボードの切断面が出ないように紙が巻いてある面を使用してください。
・やむを得ずボードの切断面が露出する場合は、事前に NP シーラック 3 倍液を塗布・乾燥させてください。



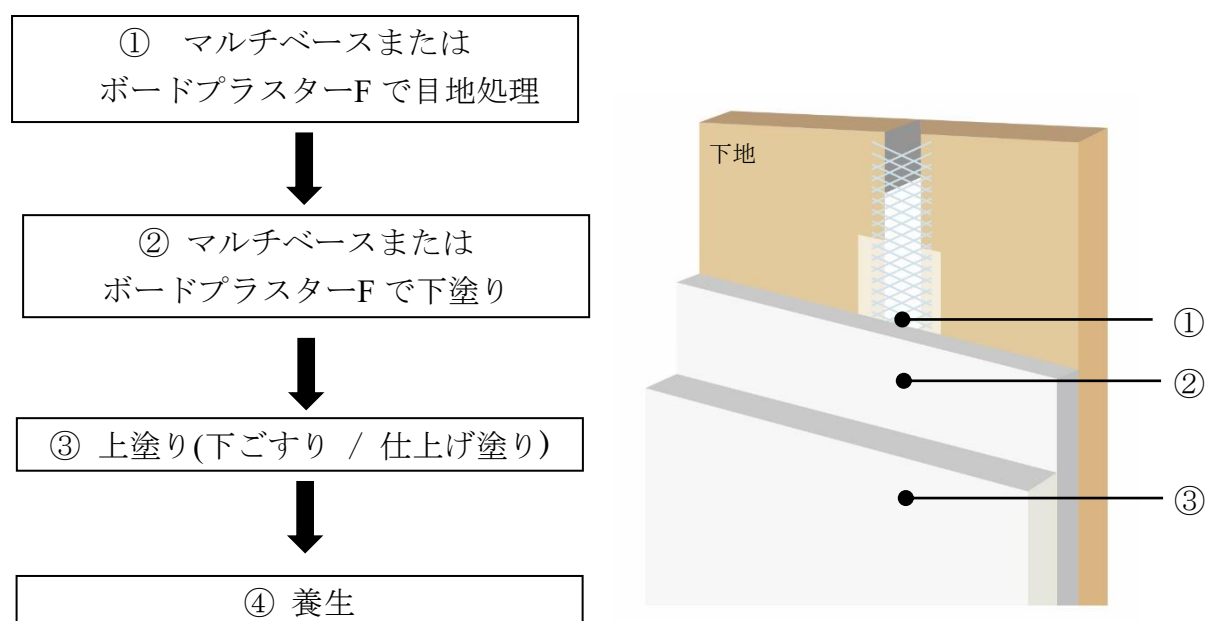
【入隅】

・入隅は木下地で補強してください。



(2) せっこうボードを下地とする場合の施工方法

(不燃材料の認定が必要な場合は、マルチベースを使用してください。)



せっこうボード下地の施工フローおよび構成図

・事前の確認

せっこうボードの貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

① マルチベースまたはボードプラスターF で目地処理

マルチベース 1袋(20kg) に対して 清水 6.5ℓ(固練りの水量) または
ボードプラスターF 1袋(20kg) に対して 清水 5.0ℓ(固練りの水量)を入れ、ハンドミキサーで
3分以上十分に攪拌してください。

せっこうボードの継ぎ目部にマルチベースまたはボードプラスターFをしっかり埋め込み、ファイバーテープを貼り付けてください(※ スクエアエッジボードでは、埋め込みは不要です)。さらに、その上にマルチベースまたはボードプラスターFをこすり付けるように塗り付け、ファイバーテープとなじませてください。このとき、継ぎ目部が盛り上がらないよう、余分な材料は取り除いてください。

また、せっこうボードに打ち込んだ頭釘にも、マルチベースまたはボードプラスターFをこすり付けるように塗り付けてください。

目地処理から2時間以上空けてから下塗りを行ってください。

② マルチベースまたはボードプラスターF で下塗り

マルチベース 1 袋(20kg) に対して 清水 7.5ℓ または
ボードプラスターF 1 袋(20kg) に対して 清水 5.8ℓ を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上十分に
攪拌してください。

マルチベースまたはボードプラスターF で下ごすりを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り
付けてください。その後、水引きを見て金ゴテで平滑に押さえてください。

下塗りが完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

③ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむトラッドで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。
また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

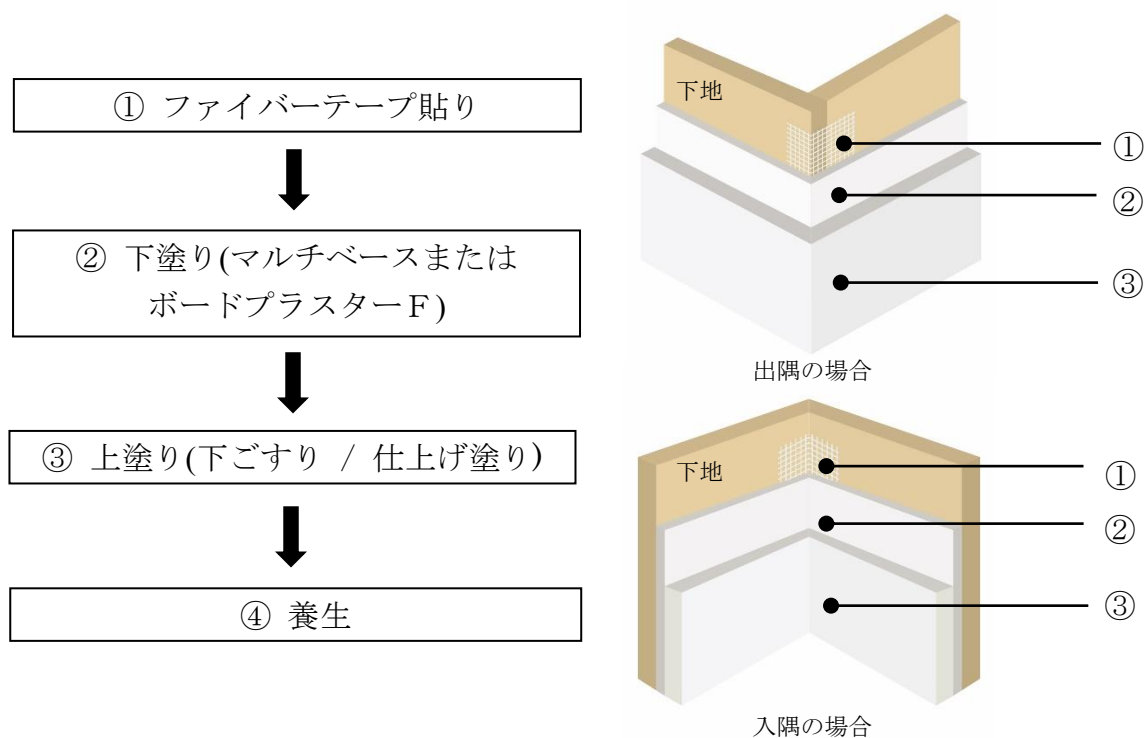
④ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促
進され、乾燥の遅い場合に有効です。

**※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してくださ
い。**

<出隅・入隅の施工方法>

せっこうボードの出隅・入隅の施工方法に適用する際の施工フローを示します。



出隅・入隅の施工フローおよび構成図

・事前の確認

せっこうボードの切断面が露出する場合は、NP シーラック 3 倍液を塗布してください。

① ファイバーテープ貼り

せっこうボードの出隅・入隅にファイバーテープを貼り付けてください。

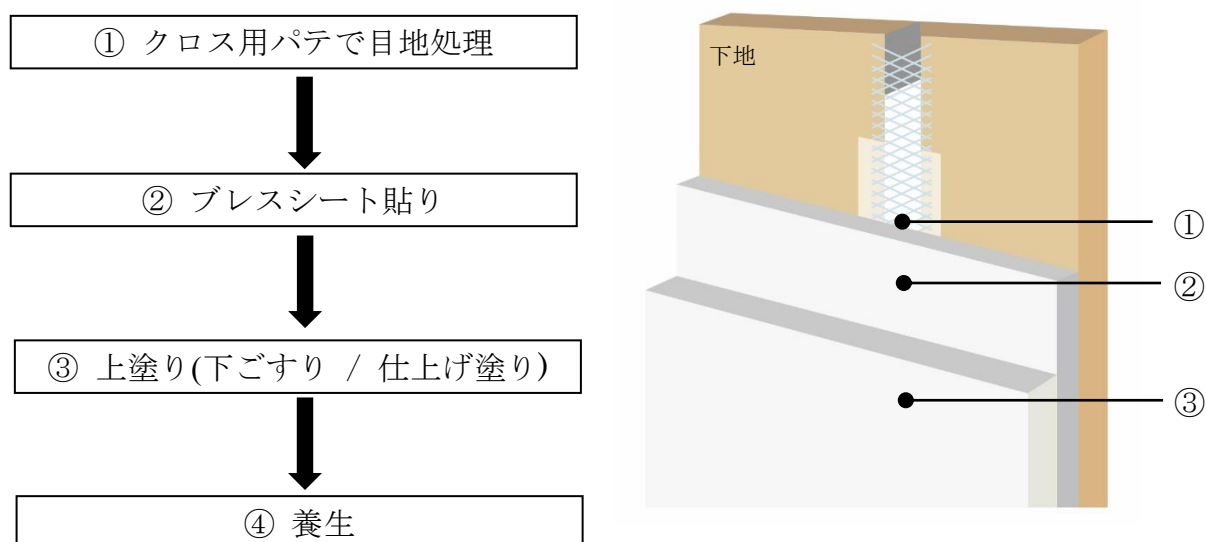
② 下塗り(マルチベースまたはボードプラスターF)

③ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

④ 養生

※平面部の施工方法と同様です。前述(8 ページ)の②～④に従って施工してください。

(3) プレスシートを下地とする場合の施工方法



プレスシート下地の施工フローおよび構成図

※ 事前の確認

せっこうボードの貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

① クロス用パテで目地処理

せっこうボードの継ぎ目・ビス止め部分にファイバーテープを貼り付け、パテ処理を施してください(下塗りと仕上げの 2 回パテ処理をしてください)。パテが完全に乾いた後、パテ用ペーパーで平滑にし、凹凸のない下地としてください。

② ブレスシート貼り

通常のクロス貼りと同じ施工方法でブレスシートの貼り付けを行ってください(詳細はブレスシートのリーフレット施工方法を参照してください)。**【入隅部】**では、基本的にはブレスシートをカットしてご使用ください。**【出隅部】**では、ブレスシートをむらなく廻し貼りにしてください。

※ブレスシートは、ザラザラした面が下地接着面、ツルツルとした面が仕上げ面です。

※糊を希釈する時は、一般的なクロスを貼るときより、2割程度濃い目にしてください。

糊は糊付機を使い、一般的なクロスを貼る場合より、多めにつけてください。

※ブレスシートのジョイント部は、せっこうボードの継ぎ目やパテ処理部と重ならないよう、10cm以上離してください。

※全体の圧着には、クロス専用のハケベラを使用し、最後にスムーザーを使い、絶対に空気が残らないようにしてください。ひび割れや膨らみの原因となります。

※貼り付け後、中一日程度養生期間をとって糊が完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

③ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

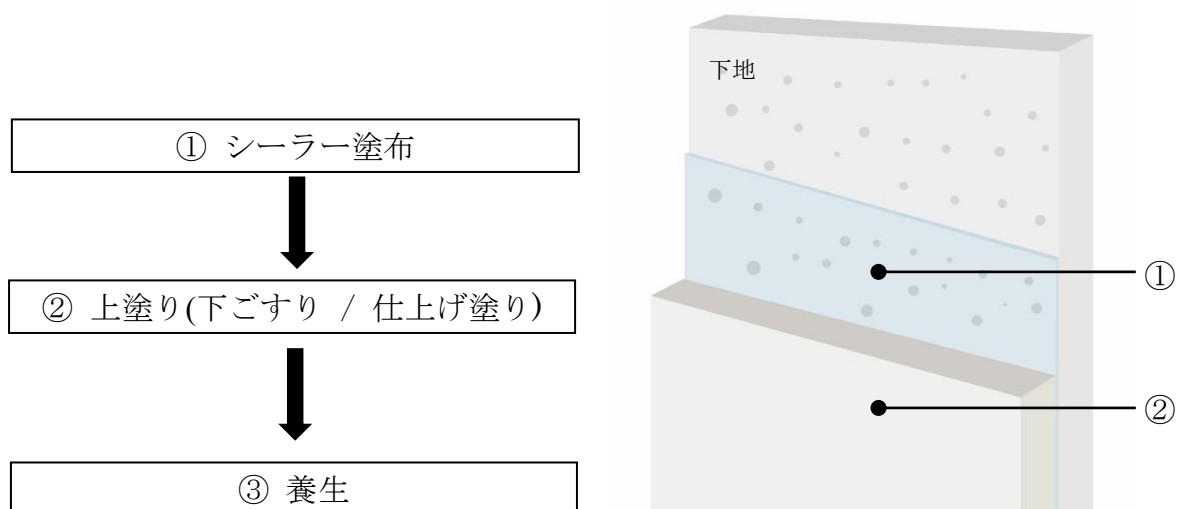
漆喰くるむトラッドで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

④ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

(4) せっこうプラスターを下地とする場合の施工方法



せっこうプラスター下地の施工フローおよび構成図

① シーラー塗布

NP シーラック 3 倍液を刷毛等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

② 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむトラッドで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。
また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

③ 養生

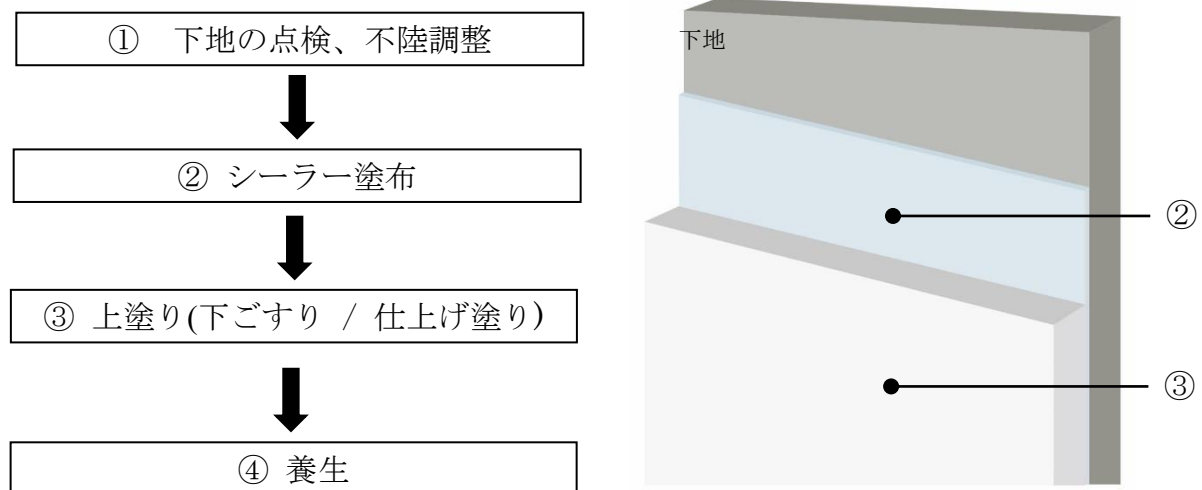
施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

4. 外壁での施工方法

外壁で利用できる条件は、「しっかりとした軒の出のある、直接雨掛かりのない壁面」に限ります。軒の出のない壁面や軒天への施工は、耐久性に優れる弊社漆喰製品「漆喰くるむ 外・漆喰くるむ 外鍍押さえ」をご使用ください。

(1) モルタル、コンクリート、砂しっくいを下地とする場合の施工方法



モルタル、コンクリート、砂しっくい下地の施工フローおよび構成図

① 下地の点検、不陸調整

脆弱部、汚れ等を入念に除去してください。下地に不陸がある場合は必要に応じて当社下塗り材(NP-α)または下地調整材(NP ウスヌリ、NP ハイパーなど)で事前に不陸調整を行い、必ず平滑な下地としてください。

② シーラー塗布

NP シーラック 3 倍液を刷毛等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

③ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

漆喰くるむトラッドで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。
また、必要に応じて、パターン付けを行ってください。

④ 養生

漆喰くるむトラッドは空気中の炭酸ガスを吸収して徐々に硬化します。施工後しばらくは少々柔らかい状態ですので、傷をつけないように注意してください。

※真夏や寒冷期、施工後 2～3 日の間に降雨が予想される場合は、シート養生などにより降雨、急乾燥、凍結の対策をとってください。注意すべきは、2 階建・大壁の場合の地面からの雨はねです。この雨はねによって変色の恐れがあります。雨はねしないよう、万全の養生をしてください。また**施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。**

5. メンテナンス方法

ヘアークラックが発生した場合

【 簡単な補修方法 】

ヘアークラックが発生した箇所の周辺を、布やすり(#180 程度)で、円を描くように軽くこすってください。

※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。



【 クラックが再発する場合 】

漆喰くるむトラッドを少量取り、クラック部分に塗り付けてください。余分な材料は取り除き、乾燥後、既存の壁との境目を布やすり(#240 程度)でこすってなじませてください。

汚れが付着した場合

【 手垢など表面の汚れの場合 】

・消しゴムを使用して、表面の汚れを取り除いてください。



・消しゴムで消えない場合は、布やすり(#180 程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。



※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。

【 染み込んだ汚れの場合 】

・重曹水を清潔な布などに湿らせ、叩くようにして汚れを取り除いてください。



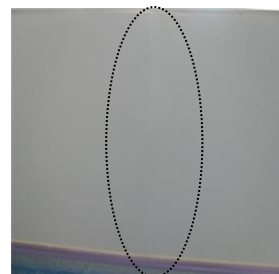
・それでも取り除けない場合は、布やすり(#180 程度)で軽くこすって汚れを取り除いてください。

※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。

せっこうボードの継ぎ目部分が目立つ場合

せっこうボードの継ぎ目周辺を、布やすり(#180 程度)で円を描くように軽くこすってください。

※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。



施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合は、施工を見合わせてください。
- 本製品は凍結厳禁です。一度凍結したものは使用できません。
- 本製品は既調合品であるため、現場での水を足しての練り戻しは絶対行わないでください。
- 施工前に必ず試し塗りを行い、パターンの付け方、仕上がり、および、乾燥具合の確認を行ってください。
- 本製品は自然素材です。塗り方、気象条件、製造ロットなどによっては、若干の色差が出る場合があります。
- 極端にパターンに凹凸がある場合、また気温・湿度・風などの施工環境によっては、塗膜にひび割れが発生する恐れがあるため注意してください。
- 施工道具を洗浄した洗浄水を河川や側溝に破棄しないでください。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から **12 ヶ月以上**のものは使用しないでください。
- 材料が余った場合は、表面が空気に触れないように付属のラップフィルムを余った材料の上へのせ、容器を密閉して冷暗所で保管してください。



日本プラスター株式会社

本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851
東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048
西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032